





## JSRは 未来の社会に貢献するため、 変化を力に変え挑戦し続けます

代表取締役・CEO・社長執行役員  
堀 哲朗

### 故きを温ねて新しきを知る

当社は高い技術力とグローバルに広がる多様な人財の持つパワーを結集し、社会の発展に必要不可欠な先進的な素材とソリューションを提供する企業として、デジタルソリューション事業、合成樹脂事業を展開しております。当社は1957年に合成ゴムの国産化を目的として日本合成ゴム株式会社として創業しました。その後、日本経済の高度成長とともに発展してまいりましたが、70年代の2度の石油危機、80年代のプラザ合意による円高の進行、そして90年代のバブル経済崩壊など日本経済を揺るがす経済変動に遭遇し、石油化学系事業は危機に見舞われました。その過程で、当社は半導体レジスト・液晶材料などの新しい領域に挑戦し、経営資源をファインケミカルに投入し、現在の事業の基盤を作りました。当社のコアコンピタンスは、高分子化学から始まる科学技術力、知見、それらを支える人財です。祖業である合成ゴム（エラス

トマー) 事業を2022年に譲渡し、事業の形は変わったものの、創業以来培われた技術力や知見、根底にある強さは変わりません。

私は2025年1月1日にJSRに入社し、同年4月1日に代表取締役・CEO・社長執行役員に就任しました。前職の半導体製造装置メーカーで培った半導体・液晶業界の歴史の理解や、企業合併、M&A、ポートフォリオマネジメント等の経験を活かし、戦略形成、財務管理、組織作りなどを進めてまいります。JSRの歴史や文化、化学業界への理解を深めて、新しいJSRの物語を作って行きたいと思っております。

## デジタルソリューションを中核事業として

昨今の世の中の情勢は、地政学的変動、国または地域間の紛争、物価上昇による需要抑制、米国関税政策など、不透明で予測しづらく、かつ変化の激しい状況が続いています。このような時代の中でも社会に価値を提供し続けていくことが、企業の社会使命だと思っております。当社の売上の大半を占めるデジタルソリューション事業は、電子材料、ディスプレイソリューション、オプティカルソリューションの3つの事業から構成されます。電子材料事業は、AI関連の強い需要が見込まれる半導体材料において強いポジションを築いております。ディスプレイソリューション事業は、液晶材料で高いマーケットシェアを維持するとともに、有機ELの適用の広がりによって成長が見込まれます。そしてオプ

ティカルソリューション事業では、テレビの大画面化によって今後も成長することが見込まれます。これらの事業を成長ドライバーと定めた中期経営計画を推進しており、2030年までに1,000億円のコア営業利益達成を目指し、積極的な事業展開とともに、同事業への再投資を進めてまいります。

## 人的資本を高め社会に価値を提供する

企業が価値を創出するためには、財務面のみならず数値で表すことのできない資産も重要です。その主たるものは優れた人的資本だと考えています。社員一人ひとりが、なにか一つ「これに関しては負けない」という、自分の軸や競争力のある部分を持つことで、変化に負けない組織としての強さにつながると考えています。強いチームを作るためには、個人の力を強めなければなりません。個人の力は、まずそれぞれの仕事に関わる専門的な分野で発揮されなければなりません。そして、様々な教養と経験を深めることで人間としての厚みが増していきます。JSRの従業員ならではの強みを伸ばし、その人の個性を伸ばすキャリア形成を推進します。自らをアップデートし、お客様の要求についていくだけでなく、お客様もまだ気づいていないアンメットニーズを先読みしていきます。そうすることで、当社にしか作ることのできない価値を生み出し、お客様をはじめとする取引先や社会に価値を提供し、変化に強い会社になることを目指してまいります。当社は今後も価値を創造して行きます。

# JSRの歩み

JSRは、1957年の創業以来、精緻を極めた先端分野のテクノロジーカンパニーとして、技術と社会の発展に貢献しています。  
新たな可能性を見いだすインスピレーションを常に持ち続け、世界が必要とする新しい技術領域に挑戦し続けます。

## 合成ゴムの国産化に成功

1957年 国策会社として設立  
1964年 合成樹脂販売開始  
1969年 民間会社に完全移行



## 先端分野への進出を進め、 電子材料分野の基盤を構築

1988年 液晶ディスプレイ材料販売開始



## 半導体・ディスプレイ材料の 世界市場でシェア拡大



## 事業構造改革を進め、成長領域に集中

2025年度より、デジタルソリューション事業(電子材料・ディスプレイソリューション・  
オプティカルソリューション)を成長ドライバーとする2030年に向けた中期経営計画を始動  
2021年 EUVメタルオキシドレジストのパイオニア、Inpria Corporationを完全子会社化  
2022年 エラストマー事業をENEOS(株)に事業譲渡  
2024年 半導体用の高純度化学薬品に強みを持つ、ヤマナカヒューテック(株)を完全子会社化  
2024年 非上場化し、新たな経営体制へ移行  
2025年 電子材料、ディスプレイソリューション、オプティカルソリューション事業を  
成長ドライバーとして、2030年に向けた中期経営計画を始動



1960年代 1970年代 1980年代 1990年代 2000年代 2010年代 2020年代

## 石油ショックを契機に、 事業基盤を強化するため 多角化戦略を開始

1971年 東京、大阪両証券取引所  
市場第一部に上場  
1979年 フォトレジスト販売開始



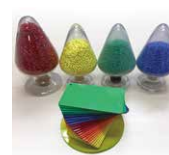
## 事業の発展を見据え、 グローバル展開を加速

1997年 社名を「日本合成ゴム(株)」  
から「JSR(株)」に変更



## 持続的成長を目指して、 社会課題の解決に挑む体制を 構築

2018年 テクノポリマー(株)とユーエム  
ジー・エービーエス(株)の統  
合によりテクノUMG(株)設立



## 事業を通じた社会への貢献(インパクト)

### たとえば、 自動車の普及に



1960年に合成ゴムの国産化を実現し、  
モータリゼーションの進展を支えてしまし  
た。さらに、合成樹脂は内装材などにも活  
用され、自動車の快適性向上にも貢献して  
います。

### たとえば、 電子機器の拡大に



半導体製造で使用するフォトレジスト  
は、半導体の微細化に不可欠な存在です。  
高性能な電子機器の開発が可能となり、  
情報通信産業の発展に貢献しています。

### たとえば、 液晶テレビの全盛期に



培ってきた高分子技術を活かし、液晶デ  
ィスプレイの高輝度・高精細化を可能にする  
豊富なラインナップを通じて、薄型テレビ  
の普及に貢献し続けています。

### 次世代社会を支える 技術基盤へ

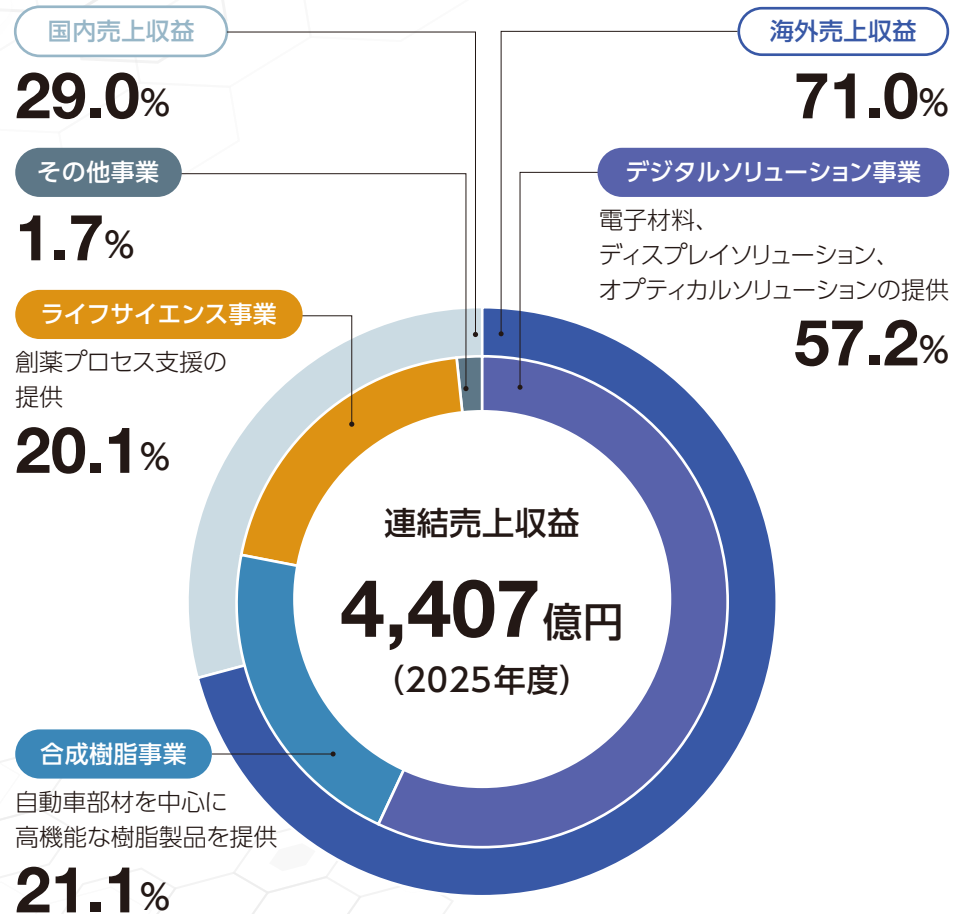


AIをはじめとする技術進歩により、先端半  
導体、次世代ディスプレイ・光学材料、高  
機能プラスチック製品等の重要性はさら  
に高まっています。JSRは未来の社会基  
盤づくりに貢献していきます。



## 数字でみるJSR(2025年度)

### JSRの事業セグメント



### 連結従業員数

**6,951** 名

※2026年3月31日時点の連結従業員数

このうち海外拠点で働く従業員数は  
3,903名です。

### 研究開発費

**322** 億円

※2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日実績)  
グループ全体、仕入品に係る受託研究費を含む

未来の技術のために研究開発に力を  
入れています。

### グループ企業

国内**16**社  
海外**40**社

※2026年4月現在

グローバルに事業を展開しています。

### 有給休暇取得率

**84.9%**

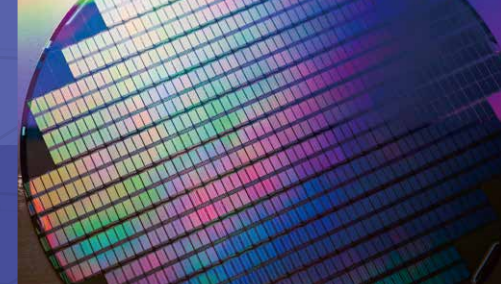
※2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日実績)、  
JSRからの出向者を含む

ワークライフバランスを重視した働き  
方を推奨しています。



## デジタルソリューション事業

半導体・ディスプレイパネル製造材料等の提供



### 電子材料事業

半導体産業における高品質・機能性材料のリーディングカンパニーとして、デバイスの製造プロセス全体にわたり幅広いソリューションを提供しています。世界中のお客様の歩留まり向上と生産性最大化を実現し、次世代デバイスの開発と幅広い領域のデバイス製造を支えます。

#### 強み

- 40年以上にわたる電子材料の経験
- 幅広い製品ラインナップ
- 開発から量産供給まで一貫した総合体制
- 先進的な生産技術とマテリアルズ・インフォマティクス(MI)の活用
- 次世代材料を創出する先端分野開発

#### JSRグループのポジション

アプリケーション

AI用サーバー、スマートフォン、PCなど

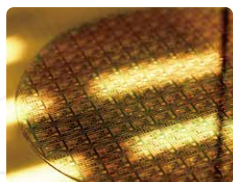
顧客

半導体デバイスメーカー、  
半導体組立委託企業(OSAT)など

JSRグループ

電子材料

### リソグラフィー材料



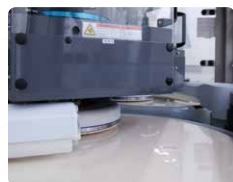
高性能／  
微細化による  
回路形成

各波長に対応するフォトリソから有機・無機が多層材料などを揃え、総合的ポートフォリオとデバイスの高性能化・信頼性を同時に支える材料設計を実現

#### 主な製品

- フォトリソ  
i線、KrF、ArF、EUV(化学増幅型、  
金属酸化物型)
- 多層材料(有機系・無機系下地膜)

### プロセス材料



多層配線形成  
の多層化／  
精工化

化学的機械的平坦化(CMP)工程や、ウエハ上に発生する残留物を除去する際に使用される製品を提供し、多層配線形成に寄与

#### 主な製品

- CMPスラリー
- CMP洗浄剤
- 機能性洗浄剤
- Wet SAM

### デポジション材料



緻密な膜の  
制御による  
デバイスの  
構造革新

ALD/CVD成膜工程に使用される材料を提供し、三次元化、多層化する複雑な半導体構造の実現に寄与

#### 主な製品

- ALD/CVD用プリカーサー
- ドープパント

### 先端電子材料



高密度実装の  
高性能化／  
精工化

半導体の製造に用いられる絶縁材料や高密度実装に対応する材料などを提供し、高品質で多様な市場ニーズに対応

#### 主な製品

- めっき用厚膜レジスト
- 感光性絶縁材料



## ディスプレイソリューション事業・ オプティカルソリューション事業

大型テレビやIT／スマートフォン、車載、パブリックディスプレイ用途、AI対応など多様化するデジタル製品に使用される材料を提供しています。高画質・デザイン多様化に加え、省エネ・PFASフリーなど環境保全にも対応した幅広い高性能製品でソリューションを提案しています。

### 強み

- 高シェア製品の保有と幅広い製品ラインナップ
- 市場・顧客ニーズに対応した営業・開発・製造体制と事業インフラ
- 高分子技術、加工技術をベースに培ったソリューション提供力、高い品質競争力

### JSRグループのポジション

|          |                                                   |                           |
|----------|---------------------------------------------------|---------------------------|
| アプリケーション | テレビ、PC、スマートフォン、タブレットなど                            |                           |
| 顧客       | パネルメーカー、モジュールメーカー<br>(LCDパネル、OLEDパネル、オンセルタッチセンサー) |                           |
| JSRグループ  | ディスプレイ材料<br>配向膜、絶縁膜など                             | オプティカルソリューション<br>耐熱透明樹脂など |

### ディスプレイソリューション事業

#### LCD材料



高いシェア／  
幅広い製品群

セル／アレイ／カラーフィルターの主要3工程で50%を超える高いシェアを持ち、低温プロセス材料・PFASフリー材料や配向膜リサイクル事業も展開

#### 主な製品

- 配向膜
- 絶縁膜
- 保護膜

#### OLED材料



フレキシブル  
OLED対応／  
高機能化

LCD材料で培った事業インフラと絶縁膜や低温材料技術などの差別化技術を活用し、低温硬化絶縁膜、光取出し材料でシェアNo.1

#### 主な製品

- 低温硬化絶縁膜
- 有機中間絶縁膜
- 光取出し材料
- 薄膜封止材料
- バンク・平坦化材料

### オプティカルソリューション事業

#### 耐熱透明樹脂ARTON®(アートン)



耐熱性／  
透明性／  
耐吸湿性

当社オリジナルCOP樹脂。LCD/OLEDディスプレイを構成する位相差フィルム向けを中心に、各種モバイル用途向け材料に適用

#### 主な製品

- ARTON樹脂

#### ARTON®光学フィルター



薄膜／  
軽量／  
高機能化

多様な光学特性を備え、割れにくく薄膜軽量の樹脂製光学フィルター。スマホカメラの高画素化やセンシング技術における高感度検出に貢献する材料に適用

#### 主な製品

- 光学フィルター(カメラ用途)
- 光学フィルター(センシング用途)



## 合成樹脂事業

自動車部材を中心に高機能な樹脂を提供

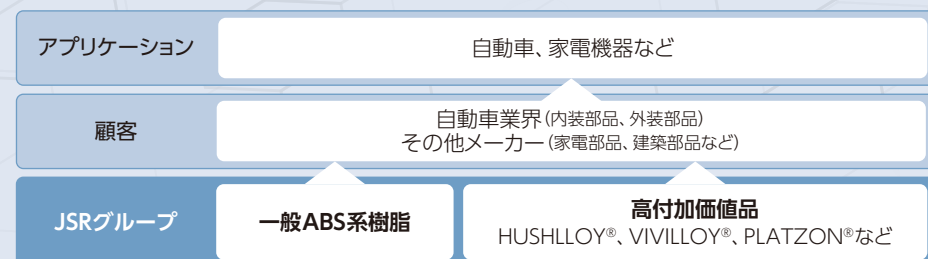


JSRグループであるテクノUMGが提供するABS系樹脂を中心とした製品は、多様なニーズに柔軟に対応する技術力により生み出され、複数の特性を組み合わせたユニークな特徴を持っています。樹脂製品の開発と部品設計の支援に取り組んでおり、世界中のユーザーに高く安定した品質、付加価値の高い製品を提供しています。

### 強み

- 独自技術による戦略商品の開発
- 広く深く市場を開拓するマーケティング力
- グローバルに対応可能な販売拠点とSCM体制
- サークュラーエコノミー推進による製品ライフサイクル構築
- バイオマス原料の素材研究・開発

### JSRグループのポジション



### ABS系樹脂



豊富な  
ラインナップ

高い実用耐性、耐衝撃性、加工性、耐候性を活かし、自動車部品や電気器具、建材部品に適用

- 一般グレード
- 難燃グレード
- 耐熱グレード
- 耐候性グレード

### きしみ音対策材 HUSHLLOY®



静粛性／  
部品削減

部品が擦れ合うことで発生する不快なきしみ音を防ぎ、きしみ音対策の効果の持続と部品コストの削減に貢献

**用途** カーナビパネル、カップホルダーなど

### めっき用材料 PLATZON®



生産性／  
効率性

めっきの密着強度に優れ、極めて広い生産条件に対応可能で、生産性向上、歩留まり改善に貢献

**用途** ステアリングホイール等自動車内装のめっき加飾部品など

### 高発色性材料 VIVILLOY®



環境負荷  
低減／  
効率性

無塗装でありながら塗装に近い深みや鮮やかさを再現し、塗装工程省略およびトータルコストダウン、環境負荷低減に貢献

**用途** ラジエーターグリル等自動車外装部品など



## 研究開発と品質・製造

JSRグループは、新たな価値を生み出す先進技術の開発に挑み、高い品質意識に基づく優れた製品を社会に提供し続けることで、社会課題の解決に貢献します。

### 研究開発

当社の研究開発部門では、人々の生活をより豊かにする高機能・高品質な製品を生み出す「事業研究」と、その基盤を支えながら次世代技術の創出を担う「次世代・基盤研究」の両輪で取り組みを進めています。

事業研究では現在展開している事業領域およびその周辺分野における研究を進めており、たとえば電子材料事業においてはAI技術を支える最先端ロジックデバイス製造に不可欠なフォトレジスト、CMP関連材料、各種プリカーサーの開発と量産適用を行い、半導体業界の急速な進化を材料面から支えています。JSRグループの持つ最先端のEUVフォトレジストは、Line/Space<sup>\*1</sup>=8/8nmの極微細パターン形成を可能にします。その寸法はウイルスよりも小さい小型タンパク質に匹敵し、さらにDNA二重らせん構造の直径(約2nm)に迫る制御

精度が求められます。こうした領域では、分子構造そのものを設計し、新しい分子を構造体として可視化する高度な創造性と精密さが必要とされます。

また、人は五感の中でも視覚に大きく依存して情報を認知しています。当社のディスプレイソリューション事業では、日常を彩るサイネージや、バーチャル空間と物理世界をつなぐ高輝度ディスプレイの製造に不可欠なLCD配向膜、絶縁膜、保護膜、OLED材料などの分野で高い技術力と長年にわたり培ってきた市場優位性を有しており、材料技術を通じて人々の視覚体験の向上に貢献しています。

事業研究という具体的課題に取り組み、実証・検証を繰り返しながら成果を社会に還元できることは、企業における研究開発の醍醐味です。半導体の性能向上を材料面から支えるこの分野は、市場と向き合いながら新たなケミカル、機構解析、設計を追求するという点において、高度な学術的探求と社会実装の双方が求められる稀有な領域といえます。

こうした市場と技術の最前線に立ち続けるため、当社は次世代・基盤研究を電子材料事業の技術開発に融合し、実験科学・分析科学・計算科学・データ科学の4つのサイエンスを有機的に組み合わせた、事業と一体の研究開発体制を構築しています。さらに、世界トップクラスの研究コンソーシアムや研究機関との共同研究を通じて、次世代デバイス技術に向けた新材料開発を国際連携で推進しており、先端パッケージング向け材料や光電融合対応材料など、半導体産業の技術ロードマップと連動した開発活動を世界規模で展開しています。

次世代・基盤研究では、RDテクノロジー・デジタル変革センターを中心に、AIアルゴリズムの活用や機械学習を用いた材料探索・プロセス最適化による研究開発の加速、最先端の分析技術の活用、スケールアップを迅速・適切に行うプロセス技術開発等のほか、メタマテリアルやスピントロニクス材料、低

次元材料など、未知の分野への挑戦と基礎技術開発を進めています。大学やコンソーシアム、社外パートナーとの連携を通じて、環境・エネルギーといった社会課題に対し、技術による解決策の提供を目指しています。さらに、マテリアルズ・インフォマティクスや量子化学計算の実用化を進めることで、製品開発におけるパラダイムシフトの創出にも挑んでいます。

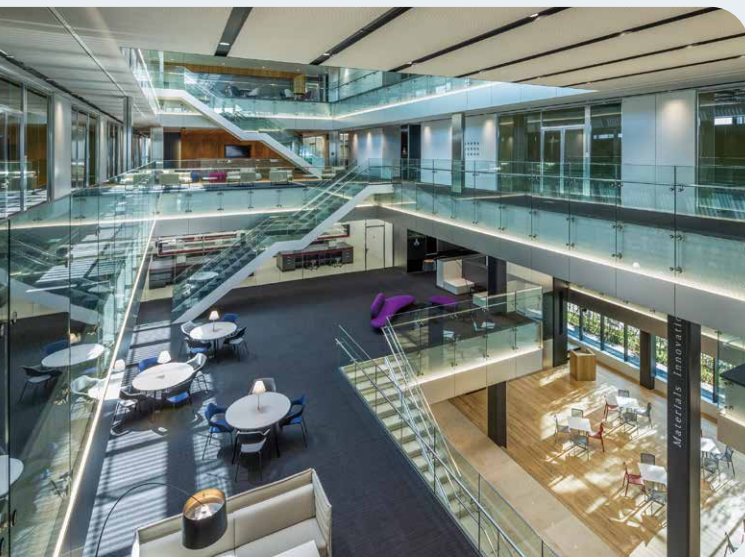
このように当社の研究開発は、生活を豊かにする事業研究と、その基盤を強化しながら未来を切り拓く次世代・基盤研究の両輪で進めています。安全・安心で豊かなデジタル社会、低環境負荷で持続可能な社会に貢献していくことを目指し、未来に向けた価値創出に取り組んでいます。

### 品質・製造

当社は、化学製品を十分な品質で安定的に提供することを責務としています。オンブストローム<sup>\*2</sup>レベルの制御が必要なフォトレジスト、視覚に訴える表示材料、自動車向けの大型樹脂製品まで、極小から大型まで多様な製品を製造・供給しています。この多様性を支えるのは、化学工学に基づくプロセス設計、設備技術、保全技能です。たとえば、300mmウエハ上で10nm<sup>2</sup>サイズの異物を数個以下に抑える制御は、東京ドームで針の穴を探すような精度を求められます。こうした高精度を実現するのは、熟練した従業員の技能と品質意識、そして継続的に改善される設備の融合によるものです。人と技術の力で、当社は業界最高水準の安定供給と高品質を実現しています。

<sup>\*1</sup> Line/Space: 半導体パターンの線(Line)と隙間(Space)の繰り返し寸法を指す表現。8/8nmは、線幅8nm・隙間8nmのパターンを意味し、非常に細かいスケール。

<sup>\*2</sup> オンブストローム(Å, angstrom): 長さの単位で、原子・分子スケールの寸法表現に用いられる。



JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

### 研究開発拠点

#### 精密電子開発センター

AI/ICT時代を支える半導体技術の発展に向け、私たちは合成化学・分析化学・データ科学・計算化学を駆使し、革新的なマテリアルを開発・提供しています。世界中の顧客との対話から未来の材料を創出し、その期待が挑戦の原動力となっています。さらに、米欧の研究機関と連携し最先端の知を取り込みながら進化を続け、若いメンバーが自由闊達な議論の中で次世代技術を切り拓いています。



#### ディスプレイソリューション開発センター

デジタル社会を支えるディスプレイ向けの材料を開発し、多くの主要部材でシェアNo.1を誇っています。多様な専門人材が有機・高分子化学やDX技術を駆使し、合成・性能確認まで一貫して革新的材料開発に挑戦しています。また、主要顧客に近い中韓台の現地ラボとの連携や、顧客との共同実験などを通じ、我々が開発した材料を使ったディスプレイを見ながら仕事ができるのも魅力です。



#### オプティカルソリューション開発室

IoTの普及や通信技術の進化に伴うニーズに対し、必要となる光学設計、材料、加工といった多彩な要素技術を開発しています。スマートフォンカメラの高画質化に不可欠な近赤外線(NIR)カットフィルターやセンシング用途向けに好適な樹脂製光学フィルターなど、光学部品市場に価値あるソリューションを提供するべく、多様な専門技術人材が研究開発に取り組んでいます。



#### プロセス技術開発室

重合や精製条件の確立、スケールアップ、新しい製品群の製造プロセスなど、ものづくりの要になる製造技術全般を開発しています。



#### 物性分析室

様々な装置や手法を用いた分析と物性評価で、材料開発における日々の支援や、お客様の元で製品が使用される際の課題解決に取り組んでいます。



#### RDテクノロジー・デジタル変革センター

マテリアルズ・インフォマティクス推進室、イノベーションマテリアル開発室、JSR・東京大学協創拠点CURIEで構成される体制のもと、材料開発とデジタル変革を推進しています。



#### JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

先端半導体材料の開発や、マテリアルズ・インフォマティクス、ライフサイエンス分野など、多岐にわたる研究活動に取り組んでいます。



## 会社概要

### 社名

JSR株式会社 (JSR Corporation)

### 設立年月日

2023年6月15日

### 創立年月日

1957年12月10日

### 資本金

16,300百万円

### 売上収益

4,407億円 (2026年3月期)

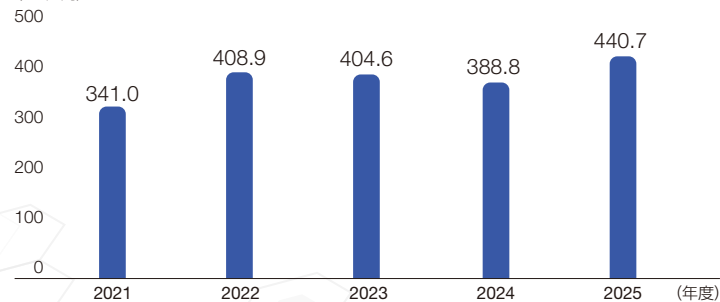
### 連結従業員数

6,951名 (2026年3月31日現在)

### 売上収益

#### ■ 売上収益

(10億円)



### 事業所一覧

#### 本社

〒105-8640  
東京都港区東新橋1-9-2  
汐留住友ビル

#### 四日市工場

精密電子開発センター  
ディスプレイソリューション  
開発センター  
オプティカルソリューション開発室  
RDテクノロジー・デジタル  
変革センター

〒510-8552  
三重県四日市市川尻町100

#### JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

〒210-0821  
神奈川県川崎市川崎区殿町3-103-9

#### JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC)

〒160-8582  
東京都新宿区信濃町35



